

滋賀県立大学

地域と交流しながら歴史と文化を発信

学生×古民家

かみおかべ古民家活用計画 - SLEEPING BEAUTY -

上岡部町にある古民家を活動拠点に、上岡部町の歴史を調査・発信するほか、地元の名人とひょうたんを作り、朝市や大学の学園祭で販売しています。イベントなどの開催や、古民家改修も行っています。



学生にインタビュー！ 地域よし・学生よし・家主よし



鈴木 優奈さん

● 取り組みに参加したきっかけは？

滋賀県立大学の「近江楽座(※)」という教育プログラムの中で、古民家活用の取り組みがあり、自然と調和した古民家で、イベントを開催したり、地域の人や子どもたちと関わることは素敵だなと思い、この取り組みに参加しました。

(※) 近江楽座とは…地域貢献を目的とする学生主体のプロジェクトを募集し、選定して、全学的に支援する教育プログラム。

● この取り組みの魅力は？

1つは地域に入って、地域の人と触れ合えること。もう1つは、地域を良くしていただくだけでなく、私たち学生もこの取り組みを通して学ばせていただいていることです。「地域よし・学生よし・家主よし」で、いろいろな人のためになる古民家活動が魅力です。

● この活動を続ける原動力はなんですか？

もともと人と関わるのが好きなので、上岡部の地域の人たちと関わることが楽しいという気持ちと、「皆さんが協力してくれているから自分も頑張らない」という思いが、原動力です。



▲ひょうたんの水出し

関係者の声

前自治会長の赤田さん

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で活動ができない状況でしたが、自治会で廃棄予定だった竹などを利用して、古民家と隣家の境界の柵を作ってもらえて良かったと思っています。

今後も、古民家の維持・管理をしっかりしていただき、以前のように活動が再開できることを、子どもたちをはじめとする地域住民も待ち望んでいます。



喫茶やギャラリーを通して地域とつながる

学生×古民家 おとくらプロジェクト

高宮町にある古民家を活用して、喫茶営業、ギャラリー、イベントなどの活動をしています。宿場町として長い歴史を持つ高宮町は、高齢化や商店街の衰退が進んでいます。この活動を通して、学生と地域・地域外の人とのつながりを作り、広げながら、高宮町に「新しい風」を起こします。



Information 大学情報

滋賀県立大学
地域連携・研究支援課
(八坂町 2500)
TEL 28-8615
FAX 28-8473



開学以来、「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに、「地域に根差し、地域に学び、地域に貢献する」ことに重点を置いた教育・研究活動に取り組んでいます。大学を「SDGsの地域化拠点」と位置づけて、誰一人取り残さず、活力ある地域づくりのために、市民や地元企業の皆さんとの協働・連携を進めています。

(地域連携担当理事 地域共生センター長 高橋 滝治郎さん)

聖泉大学

助産師学生が子どもの虐待防止を啓発

学生×オレンジリボン運動

「子どもの虐待や体罰の現状について知ってもらうこと」、「次世代の子どもたちの親となる大学生に向けて体罰問題を考える機会をつくること」を目的に、子どもの虐待防止のための啓発動画を作成し、配信しています。視聴した学生・職員に、オレンジリボンの葉っぱに未来の子どもたちへのメッセージを書いてもらい、大学全体でオレンジリボンツリーを作成しました。



学生にインタビュー！ 子どもの未来を守りたい

● 取り組んでみて良かったことは？

自分たちが頑張って作った動画を皆さんが真剣に見ている姿や、メッセージカードに思いを丁寧に書いてくださったのを見ると、頑張った良かったと思えました。(古澤 早紀さん)

動画を視聴したあとのアンケートで、「(子どもの虐待や体罰について) 知ることができて良かった」という声が多かったので、全く知らない人に知ってもらうきっかけ作りができたことがうれしかったです。(武立 涼花さん)

● どんな思いで活動に取り組みましたか？

動画の作成は、作ってはやり直し作ってはやり直しで大変でしたが、仲間の頑張る姿を見て、私も頑張ろうと思えました。助産師を目指す者として、子どもの虐待という問題に関わり、良い経験になりました。(野 紫穂さん)



▲動画の撮影風景

チラシの作成を担当したのですが、みんなで頑張って作った動画ができるだけ多くの人に見てもらい、子どもの虐待や体罰について考えてもらえるようなチラシを作成しようという思いで取り組みました。(山本 紗愛さん)



動画視聴者の声

・体罰としつけの違いがわかった。
・日本の虐待による子どもの死亡数や体罰を容認する意識が多い現状に驚いた。
・アンガーマネジメント(イライラや怒りといった感情をコントロールすること)の方法を知ることができたので、今後試してみようと思う。



市民の健康づくりのための教材開発プロジェクト

学生×保健師

地域看護学ゼミナールでは、彦根市健康推進課の保健師と連携し、市民に向けて発信する教材作成に取り組んでいます。市内には高血圧が関連する心疾患、脳血管疾患などで亡くなる人が多くおられますので、学生と同じ世代の20～30歳代に向けて、若いうちから塩分を控える食生活に取り組めるように動画とチラシを作成しています。完成版の動画は大学ホームページで公開、チラシは市内で行う健康診査などで設置される予定です。



Information 大学情報

聖泉大学
地域連携交流センター
(肥田町 720)
TEL 43-7523
FAX 43-5201



「人間理解と地域貢献」という建学の精神の下、地域を担う人材育成を行っています。地域連携交流センターでは、教養講座や子育て講座などの生涯学習講座、健康づくりリーダー養成講座やウォーキング講座などの健康講座を開講しています。学生は、彦根市消防団機能別分団(大学生団員)として市と連携し、防災訓練や火災予防啓発活動を行うなど、地域に密着した活動を行っています。また、地域医療・教育研究機関と連携し、看護キャリアアップ講座を実施しています。(地域連携交流センター長 間 文彦さん)